

## 連帯社会インスティテュート

## I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2018年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートは、少人数教育の利点を活かしたきめ細かい丁寧な個人指導を実施しており、評価できる。特に、社会人学生を対象としていることから、本インスティテュートでの学びが直接社会への貢献へと結びついている。2017年度にはカリキュラムの充実化を実施し、教育目標を策定、3つのポリシーを改定、それらに沿ったカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの策定を行い、改革が進められている。

学生に対し年2回の研究報告を通して研究の進捗に関して十分な指導を行っていることは、優れた取り組みである。学生によるアンケート結果を常に授業改善に役立させていることも評価できる。しかし、外国人入学生がいない点、プログラムによって入学者数のばらつきがある点が懸念され、安定的な入学者の確保に引き続き努力していただきたい。

卒業生が本インスティテュートでの学びをどのように実社会で生かしているかを調査し外部に知らせることも、学生募集に効果があるのではないかと考える。また、専任教員と兼任講師の繋がりが若干希薄に思われ、兼任講師からの意見をフィードバックするための場を設定いただきたい。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

プログラムによる入学者数のばらつきは、今年度の入学者が3人ずつに改善された。卒業生が学びを実社会でどのように生かしているかについてと兼任講師からの意見のフィードバックについては、具体的な方法について検討中。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートでは、2018年度大学評価委員会の評価結果への対応が適切になされている。丁寧な少人数教育、社会人教育、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーの策定、年2回の研究報告を通じた学生指導が行われている。プログラムごとの入学者数のばらつきの改善については、2018年度の重点目標に設定し、数値目標を達成した。兼任講師からのフィードバックの活用については、対応が進められている。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」において、実務家からの講義を受け、議論を行い、それらを踏まえ、論文指導を実施している。	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ④の論文指導に関して、草稿の段階で複数の教員がコメントを行うシステムを導入した。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 博士後期課程を設置していないため該当なし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 博士後期課程を設置していないため該当なし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
<b>【修士】</b> 労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供していることに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べるようになった。	
<b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べるようになった。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	
<b>【修士】</b> 連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生全員に参加を求めている。ただし、2018年度には、「NPOとソーシャルチェンジ」の授業において、国連職員が帰国の際、講師として招いた。また、「比較社会労働運動史」やNPOとソーシャルチェンジなどにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
※履修指導の体制および方法を記入。	
<b>【修士】</b> これまで新入生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っていく。	
<b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2017年度にカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度にはこれを活用して、オリエンテーションで、学生の履修指導を行った。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー」	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。	
<b>【修士】</b> 新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。	
<b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい いいえ
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
<b>【修士】</b> 1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1年次、2年次にそれ	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>ぞれ「研究報告」を年2回－春と秋－開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも3時間以上にわたる発表である。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。</li> <li>・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行った。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p><b>【修士】</b> 連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、所属組織が判明しているので、特段把握する必要はない。ただし、2018年度に労働組合プログラムの学生1人が他大学の博士課程に進学した。また、NPOプログラムの学生は、法政大学の研究生として博士課程入学をめざしている。</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・これらについては、運営委員会で情報として共有している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 特にしていない</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p><b>【修士】</b> 特にしていない</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度授業改善のためのアンケート」</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は運営委員会に提示し授業改善に向けての資料として有効活用している。また運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設問）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度授業改善のためのアンケート」</p>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## 【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

## ①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

連帯社会インスティテュートにおいては、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。基礎科目（必修）、専門科目（必修、論文指導を除く）、選択必修科目、選択科目に多様なコースワークの科目を配置している。特に、「連帯社会とサードセクター」（基礎科目）では、実務家によるオムニバスの講義を提供している。リサーチワークとして、専門科目（必修）に論文指導 I、論文指導 II を配置している。

専門分野の高度化に適切に対応している。2018 年度から、「サードセクター協働論」（労働組合、協同組合、NPO の 3 者の協働について学ぶ）を開講し、学びの深化が期待される。

グローバル化推進のために、「NPO とソーシャルチェンジ」において国連職員を講師として招き、グローバルな視点で授業が実施されている。

## ②教育方法に関すること (1.2)

連帯社会インスティテュートでは、オリエンテーションにおいて、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを活用した、適切な学生の履修指導が行われている。「修士論文提出までのタイムスケジュール」と「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布した。

研究指導計画に基づいて、適切に指導が行われている。1 年次に 2 回、2 年次に 2 回、研究報告会を開催し、研究テーマの発表、修士論文の進捗状況を学生に報告させている。

## ③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

連帯社会インスティテュートの成績評価と単位認定の適切性については、3 名の専任教員が相互にシラバスを確認することにより行われている。学位論文審査基準は、配布資料「修士論文の提出、審査体制、審査基準」で明らかにしている。学位授与状況は、審査を行う 3 名の専任教員が把握している。学位の水準を保つために、「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を審査基準の一つに掲げている。適切な学位の授与のために、3 人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。学生の就職状況は、社会人であるため、入学時点で把握されている。修了学生の進学も把握されており、運営委員会で情報共有されている。

学習成果の測定指標及び学習成果を把握・評価するための方法については、2019 年度に授業科目ごとの自己点検フォーマットの作成を検討し、次年度以降にそのフォーマットをもとに検討し、導入を目指すとしており、早急な対応が期待される。なお、学習成果の一部については、独自アンケート結果により把握されているが、今後も学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発することが求められる。そのため、他研究科等の取り組みを参考にしながら早急に検討を進めていただきたい。

教育課程の改善・向上に向けて、授業評価アンケート調査を実施し、運営委員会で検証している。授業改善アンケート結果は、運営委員会で検証し、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）にフィードバックしている。

## 2 教員・教員組織

## 【2019 年 5 月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）等内の独自の F D 活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【FD 活動を行なうための体制】</b> ※簡条書きで記入。 運営委員会で以下のような取り組みを行っている。 <b>【2018 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※簡条書きで記入。 ・基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2018 年度授業改善のためのアンケート」	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<b>※取り組みの概要を記入。</b> 労働組合、協同組合、NPO の 3 つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

員の判断に任せている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

FD 活動は適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、結果を運営委員会で検討している。また、定期的に公開シンポジウムを開催することで、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を行っている。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットを作成する。</li> <li>・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットを作成する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理する。</li> <li>・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえる。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットが作成され、活用されていること。</li> <li>・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットが作成され、活用され、科目履修生の希望の実現につながっていること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理され、導入の必要性が判断された場合、導入され、より多様な研究実績の創造につながっていること。</li> <li>・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえて、論文の質的向上につながること。</li> </ul>
年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	○授業科目 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを作成し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの配置の関係を明確に示した。科目等履修生2名が2019年度より入学することとなった。リサーチペーパーの現状と課題についての調査、整理は2019年度に持ち越された
		改善策	リサーチペーパーに関して他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理する。
No	評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	○授業科目 ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 ○修士論文 ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。	
	年度目標	○授業科目 ・FDの実施に関して、検討を行う。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、検討する。 ○修士論文 ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討する。	
	達成指標	○授業科目 ・FDの実施に関して、検討の結果、まとめられた内容を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、まとめられた検討結果を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 ○修士論文 ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討され、まとめられた結果を踏まえ、研究指導体制が改善されていること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教育方法については本インスティテュート独自で行っている授業評価アンケート調査（選択式＋記述式）を基に、専任教員が学習効果をあげるために独自の取り組みを行っているが、非常勤教員の教育方法把握の必要性について検討することはなかった。修士論文の審査体制と評価方法について専任教員の間で話し合いを持った。
		改善策	非常勤教員の教育方法把握の必要性について検討する。
No	評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 ○修士論文 ・研究報告について、出席と報告の確認だけでなく、報告内容のレベル基準や指標、その	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討する。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式を検討する。 ○修士論文 ・研究報告の報告内容のレベルの基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。
	達成指標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準が検討され、その結果がまとめられていること。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置が検討され、その結果がまとめられていること。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式が検討され、その結果がまとめられていること。 ○修士論文 ・研究報告の報告内容のレベル、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが検討され、その結果がまとめられていること。 ・論文については、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法が検討され、その結果がまとめられていること。
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		C
理由		学習成果の測定について、2018年度は特段の検討をしなかった。
	改善策	2018年度の年度目標を2019年度には十分達成できるよう努力する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性を検討する。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



		<p>検討する。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準を検討する。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。</li> </ul>	
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性が検討され、その結果まとめられた内容を実施することにより、推薦団体からの評価が高まること。</li> <li>・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などが実施されるとともに、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討され、その結果に基づき、入試広報が進められ、応募者の量的質的な改善がみられること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準をが検討され、その結果に基づいて、入試の質的水準が把握されるようになること。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策が検討され、その結果がまとめられて、留学生の継続的な入学が実現すること。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段が検討され、その結果に基づき、受験生の多様化、量的質的向上が実現すること。</li> </ul>	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	修士論文発表会を推薦団体の関係者、卒業生を招いて開催した。労働組合関係者 12 人、協同組合関係者 6 人、学識経験者 2 人、大学院 1 年生 10 人、2 年生（発表者）9 人、卒業生 3 人、入学予定者 3 人、インスティテュート教員 3 人、研究交流センター事務局 4 人、計 52 人が出席した。この場で、推薦団体の満足度を評価でき、卒業生と在學生とのつながりを築くことができた。また連帯社会研究交流センターの協力を得て行っている連続講座（半年で 6 回）の 2 回に NPO 実務家を招き、NPO への関心を持つ潜在的受験生を呼び寄せることに成功した。その結果、複数の入学者を確保することができた。
		改善策	－
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が 3 名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。</li> </ul>	
	年度目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討する。</li> </ul>	
	達成指標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、その結果が導入されることで、非常勤の教員の教育意欲と受講生の学習成果が高まること。</li> </ul>	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	非常勤教員の考えをインプットする仕組みを検討した。
		改善策	2019 年度も検討を継続し、仕組みについての具体的な案を考案できるよう努力する。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの</li> </ul>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策を検討する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。学生支援などに関する話し合いの場の設定を学生と検討、必要な場合、設ける。
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策が導入されることで、受講生の学習意欲と成果が高まること。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性が検討され、その結果が反映された指導体制崖精されることにより、学生の指導への満足度の向上と論文内容の向上につながる。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握が行われ、その結果が導入されることで、学生の教育成果が向上すること。 ・院生会が設立されることにより、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握が進展すること
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 S
		理由 専任教員に関しては、学生の求めに応じて柔軟に研究指導、論文指導を行っている。草稿を早期に完成させた学生に対しては、複数の教員による指導を行うことができた。各プログラムで1、2年合同ゼミナールを開催し、学年を越えた学生のつながりの場を設けている。春学期のオムニバス授業、秋学期のスタディ・ツアー（NPOを訪問）には1年生全員が出席、参加しており、十分なコミュニケーションが取れている。
		改善策 -
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
	年度目標	○講義、ゼミ、論文指導をしっかりと行うことによって連帯社会構築を担うにふさわしい能力と知識を獲得した卒業生（10名全員）を社会に送り出す。 ○専任教員が行った連帯社会に関する1年間の研究成果（学会報告、講演、シンポジウムなども含む）の一覧表を作成し、外部に発信する。
	達成指標	○毎年10名程度の卒業生を確実に社会に送り出し、2021年度末には50名を超える連帯社会の担い手を創り出す。 ○4年間の研究成果を踏まえ、専任教員による連帯社会に関するシンポジウムを開催する。
	年度末	教授会執行部による点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	S
		理由	本インスティテュートの講義、ゼミ、論文指導によって高度な知識と能力を獲得した卒業生を9名、社会に送り出すことができた。専任教員の研究成果の一覧表を作成し、連帯社会研究交流センターの協力をえて、同センターのホームページに掲載した。
		改善策	—
<p><b>【重点目標】</b>          学生の受け入れ          &lt;重視する理由&gt;          労働組合、協同組合、NPO という3つのプログラムで構成されている連帯社会インスティテュートは定数を10名程度と定めているが、10名から13名の学生を開設以来受け入れてきた。したがって、インスティテュート全体としてみれば、学生募集は順調といえる。しかし、プログラムごとにみると、推薦入学を中心にした労働組合と協同組合の入学者が大半で、NPOプログラムの入学者は、2017・18年度とも1名に止まった。この状態が継続すると、労働組合、協同組合、NPOの三者により連帯社会を築くというインスティテュートの目標が損なわれかねない。このような認識から、NPOプログラムの学生の受け入れを増やすことが喫緊の課題と判断し、重点的に取り組むことにした。</p> <p>&lt;具体的な施策&gt;          学生の受け入れを増やすには、応募者を増やすことが必要であり、そのためには広報の充実が求められる。しかし、単にインスティテュートの存在を示すだけでは不十分であり、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査し、インスティテュートの特徴を明確にする必要がある。そのための調査と結果を踏まえ、広報のチラシやウェブなどの作成に加え、一部の授業の公開、入試説明を兼ねたシンポジウムや研究会の開催などを行い、NPOプログラムのビジュアル性を高める。さらに、入学した学生の学習や研究の満足度と成果を高め、修了生の「ロコミ」的な広報を広げていくことで、応募と受け入れの増加につなげていく。</p> <p>&lt;年度目標&gt;          2018年度の目標としては、左記の具体的な施策の実現に向けた準備期間として、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査するとともに、NPOプログラムのウェブの開設や入試説明をかねたシンポジウムなどをパイロット的に開催する。また、これらに必要な予算の確保を進める。</p> <p>到達目標：          ・競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査については、年度内に終え、運営委員会で報告し、インプットされた内容も含め、次年度以降の広報などに生かす。          ・NPOプログラムのウェブを開設する。          ・入試説明をかねたシンポジウムなどを複数回実施し、その成果や課題を検討し、運営委員会に報告、議論し、翌年度の改善につなげる。          ・3名以上の応募者と複数の入学者を獲得する。          ・ウェブやシンポジウムなどに必要な予算調達のめどをつける。</p>			
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b>          重点目標としていた学生の受け入れについて予想以上の成果を挙げることができた。そればかりでなく、学生支援、社会貢献・社会連携についても同様の成果を挙げることができた。この状況を今後も続けていきたい。教育課程・教育内容、教育方法については、一定程度の成果を挙げたと認識しているが、しかし、まだより良くしていく努力が必要だとも実感している。他方、学習成果の測定に関しては目標が達成できておらず、非常勤講師の考えのインプットも不十分にとどまった。来年度以降、この点に十分注意を払いながら、授業の質を高める努力をしていきたい。</p>			

#### 【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

重点目標「学生の受け入れ」において、数値目標を達成した。NPOプログラムについて「3名以上の応募者と複数の入学者」を目標に設定し、2019年度に3名（残り2プログラムもそれぞれ3名ずつ）が入学した。一方で、教員組織の「非常勤の教員の考えのインプット」（B評価）については、インプットする仕組みの検討を続けている。教育課程・学習成果【学習成果に関すること】の「学習成果の測定」（C評価）については、2019年度には着実に達成できるよう取り組みを進めていきたい。

#### IV 2019年度中期目標・年度目標

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、検討を行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科などの実態を把握する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、教員による自己点検のフォーマットが作成されること。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらを決定されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討する。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>必要があるかどうか、議論する。</p> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどを検討する会議が行われること。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2 とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検する会議を開催すること。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を各教員が作成し、この基準案について、検討する。</li> <li>・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の基準案を作成、検討する。</li> <li>・専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。</li> <li>・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、専任教員全員で検討し、妥当とされる割合が80%以上になること。</li> <li>・オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、専任教員により妥当とみなされること。</li> <li>・専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を前期中に策定すること、その方法に基づき、後期授業から、単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		断する枠組みを検討する会議を、後期に開催すること。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、後期に開催すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を開発する。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。
	達成指標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に努める。
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を議論、決定する。論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。</li> <li>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討、具体的な方法を決定すること。</li> </ul>
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</p>
	年度目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を高く維持する。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。</p>
	達成指標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。</p> <p>○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。</p>
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>学生支援における「学習支援」を最も重視する。学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。

#### 【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

2019年度中期・年度目標は、適切に設定されている。2018年度に引き続き、「非常勤の教員の考えのインプット」が設定されており、具体化に向けた検討が期待される。また、2018年度にC評価であった「学習成果の測定」に関する目標も継続して設定されている。着実に検討を進めるとともに、学位授与方針に示した能力を修得したかどうかという観点からの「学習成果の測定」についても取り組みをお願いしたい。重点目標が2018年度の「学生の受け入れ」から、2019年度は「学生支援における学習支援」へ変更された。社会人学生の支援に関して、目標達成を期待したい。

#### 【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートの教育内容については、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」、「サードセクター協働論」が特色ある科目として、評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づき、学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づく、学生の研究報告（1年次に2回、2年次に2回）と、それに対する指導が高く評価される。成績評価と単位認定は適切に行われている。

連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。

2018年度目標の達成状況について、重点目標の「学生の受け入れ」において、NPOプログラム入学者の数値目標を達成した。2019年度中期・年度目標について、重点目標が「学生支援における学習支援」に変更された。社会人学生の支援に関して、前年度と同様、目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関しては、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも、他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでいただきたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。